

研究開発実施状況報告書

住 所 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1
管理機関名 兵庫県教育委員会
代表者名 教育長 西 上 三 鶴

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

令和元年5月16日（契約締結日） ～ 令和2年3月31日

2 指定校名・類型

学 校 名 兵庫県立柏原高等学校
学校長名 井上 千早彦
類 型 グローカル型

3 研究開発名

TAMBA Mirai Project 丹波からTAMBAへ
～グローバルな視点で丹波の地域課題解決に主体的に取り組むグローバルリーダーの育成～

4 研究開発概要

地域が抱える課題と世界が抱える課題との共通点を見だし、SDGs（持続可能な開発目標）に関連するテーマについて、地域の自治体や関係機関に加え、海外の教育機関も含めたコンソーシアムを構築し、グローバルな視点で共同研究を行うことで、地域と世界をつなぐ柔軟な発想を持ち、立場や文化、背景の異なる人々とも協働しながら実践的に学び、地域資源を生かした課題解決について提案し、地域や世界の未来を創造できるグローバル人材の育成をめざす。

育成すべき具体的な資質・能力として、①地域の魅力と課題を理解し、活性化や課題解決に積極的に関わろうとする姿勢、②世界と地域を結び付けた広い視野から地域課題を解決しようとする柔軟な発想力、③価値観や文化の異なる人たちと協働しながら課題解決に取り組む実践力、等を培うことで、将来、グローバルな視点で地域を創造するリーダーを育成できると考える。

5 教育課程の特例の活用の有無

無

6 管理機関の取組・支援実績

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会等				○								○
課題研究発表会				○					○			○ 中止
ひょうごグローバルリーダー育成推進協議会運営									○			
高大連携による支援、ALTの増員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グローバルリーダー育成の事業実施		○	○	○	○							○

(1) コンソーシアムについて

① コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
丹波市	市長 谷口 進一
丹波市教育委員会	教育長 岸田 隆博
丹波市国際交流協会	会長 山口 直樹
丹波市商工会議所	会頭 大地 但
丹波市観光協会	会長 柳川 拓三
丹波医療センター	院長 秋田 穂東
福知山公立大学地域連携センター	センター長 杉岡 秀紀
ワシントン州 ケント市	市長 ダーナ・ラルフ
ワシントン州 オーバン市	市長 ナンシー・バックス
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年4月	コンソーシアムを組織 ・コンソーシアムの構成団体に事業説明を行い、コンソーシアムとしての各団体の役割を確認した。
令和元年5月27日	・丹波市と市内県立高校3校（本校、氷上高校、氷上西高校）で連携協定を行った。丹波市からは事業推進に向けての協力内容が示された。
令和元年7月16日	課題研究中間報告会 ・課題研究の内容と進捗状況について生徒が発表しコンソーシアムのメンバーからアドバイスを受けた。
令和元年7月26日	渡米しワシントン州ケント市と本事業について打ち合わせ ・丹波市との姉妹提携の取組みの一環として留学生の派遣と受入の推進について話し合った。
令和元年7月29日	渡米しワシントン州オーバン市と本事業について打ち合わせ ・丹波市との姉妹提携の取組みの一環として留学生の派遣と受入の推進について話し合った。
令和元年10月10日	ワシントン州ケント市長、オーバン市長来日 国際交流の推進と助言、課題研究の助言を受けた。
令和元年11月5日	丹波市と本事業の今後の方向性について打ち合わせ ・丹波市企画総務部総合企画課を窓口とし、生徒の意見を市政に反映させる方法について話し合った。
令和元年12月19日	課題研究中間報告会 ・課題研究の内容と進捗状況について生徒が発表しコンソーシアムのメンバーからアドバイスを受けた。

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

分類	氏名	所属・職	雇用形態
海外交流アドバイザー	松岡 秀司	カンボジアパンナサストラ大学教授	都度依頼し謝礼支払い
海外交流アドバイザー	鴻谷 佳彦	NPO法人gift理事	都度依頼し謝礼支払い

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
松岡 秀司 氏 令和元年8月21日～8月23日	・カンボジアにおいて、カンボジア研修の現地コーディネーターを行う。
松岡 秀司 氏 令和元年9月25日	・パンナサストラ大学バットンバンキャンパスインターナショナルスクールの責任者を日本に招き、本校視察の案内と今後の交流のコーディネーターを行う。
松岡 秀司 氏 メールにて随時	・カンボジア研修及びパンナサストラ大学バットンバンキャンパスインターナショナルスクールの生徒が参加するイングリッシュキャンプのコーディネーターを行う。
鴻谷 佳彦 氏 令和2年3月10日	・海外研修における課題研究の進め方について

(3) 地域協働学習実施支援員について

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

地域協働学習実施支援員の役割として、丹波市にあるNPO法人gift、丹波市企画総務部総合政策課のボランティア協力として、課題研究のアドバイスをいただいた。

② 実施日程・実施内容

- 令和元年7月16日 地域人材を活用した課題研究の進め方について
- 令和元年11月5日 丹波市と協働した活動について
- 令和元年12月19日 地域と協働した課題研究の進め方について

(4) 運営指導委員会について

① 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
中瀬 勲	兵庫県立人と自然博物館館長	学識経験者
高畑 由起夫	関西学院大学 フェロー	学校教育に専門的知識を有する者
杉岡 秀紀	福知山公立大学 准教授	学校教育に専門的知識を有する者
柳川 拓三	丹波市観光協会 会長	関係機関の責任者
Rooks Matthew John	神戸大学 准教授	学校教育に専門的知識を有する者
西田 利也	兵庫県教育委員会事務局高校教育課長	関係行政機関の職員

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年7月4日	第1回運営指導委員会 ・事業内容について協議し、今年度の事業の方針を決定
令和元年7月16日	課題研究中間報告会 ・課題研究の内容と進捗状況について確認
令和元年12月19日	課題研究中間報告会 ・課題研究の内容と進捗状況について確認
令和2年3月3日	第2回運営指導委員会 ・今年度の事業の反省と来年度に向けての取組について確認

(5) 管理機関における取組について

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

・ALT（外国語指導助手）の増員

県内におけるグローバル人材育成拠点校と位置付け、ALTを重点配置した。日常の英語活動や異文化理解に係る教育を強力に推進したほか、英語によるプレゼンテーションの指導、海外フィールドワークの事前指導の充実を図った。

・「ひょうごグローバル・リーダー育成キャンプ」（2泊3日）の実施

ALTの活動や宿泊生活を通じて、高校生が論理的思考力や伝える力、コミュニケーション能力やチャレンジ精神を身につけることができる。2名（県下51名）が参加し、校内でその成果を広めた。

・「ひょうごグローバル・リーダー育成推進懇話会」の開催

県内本事業指定校のほか、SGH指定校、アソシエイト校、ひょうごスーパーハイスクール指定校、包括連携協定を結んでいる3大学及びSGUである関西学院大学の関係者、県内のグローバル企業関係者等から構成される懇話会を設置し、各校の取組について情報交換を行うとともに、事業運営における課題等について、企業や大学関係者からの指導助言をうけ、本事業の推進及び県内高等学校への普及活動を図った。

・運営指導委員会及び成果発表会に担当指導主事を派遣

7月、3月に開催された運営指導委員会において、大学・企業・関係機関関係者等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導助言を行った。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

・本県単独のひょうごスーパーハイスクール事業、インスパイアハイスクール事業において財政面を支援するなど、終了後も本事業の取組を継続させ、さらなるカリキュラム開発、そして県下への発信などグローバル・リーダー育成の中心として活躍できるよう支援する。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

・令和元年5月27日丹波市内の氷上、氷上西高校と地域との協働による高等学校教育改革推進事業に関する連携協定を結び、市役所にて調印式を行う。市は情報提供など、生徒の研究を助け、生徒は成果を市に発表する。

・平成26年3月韓国金海外国語高等学校と交流校協定締結

・平成30年丹波市とアメリカ ケント市・オーバン市が姉妹都市提携

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域課題に関する課題研究	12回	18回	18回	3回	2回	18回	18回	18回	3回	0回	3回	*3回
ケント市、オーバン市（アメリカワシントン州）における研修				派遣								
金海外国語高校（韓国）との交流									派遣		*受入	
桃園市至善高等学校（台湾）との交流								1回				
パンナサストラ大学（カンボジア）における研修					派遣							
地域課題から世界を考える日				中間発表					中間発表			*〇
グローバル・サミット												*〇
自治体、国際機関等への提言												*〇

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高校生国際問題を考える日（県教委主催）											1回	
長期・短期留学派遣、受入	受入				受入							
テレビ会議等による海外校との協働学習				1回				1回	1回		*○	*○
柏原高校イングリッシュキャンプ					1回							*○
ひょうごグローバル・リーダー育成キャンプ				○								
地域理解、活性化策の提案										1回	○	*○
ローカルキャリア教員養成セミナー		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*○
地域医療系人材養成プログラムの開発		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
地域公務員養成プログラムの開発		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
「ようこそ先輩」授業		1回		1回					1回			*○
「進路探究WEEK」							○					
在住外国人との共生		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

*については、新型コロナウイルス感染症対策にかかる休校の為、中止。

(2) 実績の説明

【高齢化、人口減少流出への対策】

「高齢者の徒歩における避難能力」「丹波市豪雨災害における共助のはたらきについて」「高齢者の移動手段」「高齢者の生きがい」など、現状における高齢者支援を考える一方で、「丹波市を外国人の住みやすい街に」「Iターン」「子育て世代の人口増」など、移住・定住をめざした内容について研究するグループがある。これについては、ケント市、オーバン市の市長との面談において「人口減少に対する対応策」について意見を交わした。

【豊かな自然環境との共存、有効活用】

丹波市で起こった豪雨災害を題材に、自然環境との共存の一つには森林を適切に管理し、資源として活用することが一つである。丹波市の取り組む防災政策について話を聞き、実際に森林に足を運んだ。製材所、木工所の人たちから森を守る大切さを聞き、間伐材を利用した製品について考えている。オーバン市では、自然を生かした公園づくりを進めており、住宅地の開発にも湖を活かして景観に取り入れていた。そのような緑や水の活用法のヒントが海外研修で得られている。

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

1年生

・総合的な探求の時間

柏原高校の歴史を知ろう、柏原高校卒業生から考える自分の進路、丹波人物伝

・探究 I

異文化（医療）（言語学）（日本語教育の活動）、丹波に住む外国人（ベトナム）、地域活性化（医療と福祉）（市島活性化）、Iターン、特産品、老後社会（働き口）、老人の移動（コミュニティバス）、人口（地域別）、子育て世代の人口増、子供に夢を与える、労働力（医療ロボ）、農業用水水質、障害者の生産物、医療センター中心の経済、景観（城下町）、観光バス、ごみ問題（ポイ捨て）（紙ストロー）、単身親の教育参加、フェアトレードへの意識付け、魅力ある学校、スタンディングデスク

2年生

- ・総合的な学習の時間

台湾研究～台湾修学旅行にむけて～

- ・探究Ⅱ

プロジェクトof花粉、丹波三宝で離乳食、丹波市豪雨災害における共助のはたらきについて、丹波市豪雨災害における土砂災害の前兆現象について、高齢者の徒歩における避難能力について、柏原高校をよりよくする、外国人労働者と共生した社会に向けて、スタンディングデスクを用いた授業スタイル改革に向けての一提案、丹波市密着型の祭りにしよう、丹波市を外国人の住みやすい街に、人口減少について、情報産業を活用した地域復興

3年生

- ・総合的な学習の時間

小論文力の向上を目指して、プレゼン力の向上を目指して

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

表 探究的な学びを実現する学習内容の位置付け

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

表 探究的な学びを実現する学習内容の位置付け

	事業を通して育成する資質・能力							事業の内容・テーマ					
	国際的視野	英語運用能力	地域理解	課題発見・解決能力	論理的思考力	コミュニケーション能力	情報処理能力	プレゼン能力	課題研究	地域理解・活性化の提案	キャリア教育の推進	共生	在住外国人との
海外研修	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
国語	○		○	○	○	○		○					
地歴・公民	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	
数学				○	○	○	○	○					
理科			○	○	○	○	○	○					
保健体育				○	○	○		○					
芸術				○	○	○		○					
英語	○	○		○	○	○		○				○	
家庭			○	○	○	○		○			○		
情報				○	○	○		○					
探究	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総合的な探究・学習の時間	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

④類型毎の趣旨に応じた取組について

知の探究コースは「探究」の授業において、課題研究を行い、一般クラスは「総合的な探究・学習の時間」に探究的な学びを取入れた。知の探究コースと一般クラスの各教科における探究的な学びの取組みは、共通している。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・発表実績

11月4日 高大連携課題研究合同発表会（京都大学）

11月15、16日 リサーチフェア2019（関西学院大学）

「ポスター発表実行委員会特別賞」受賞

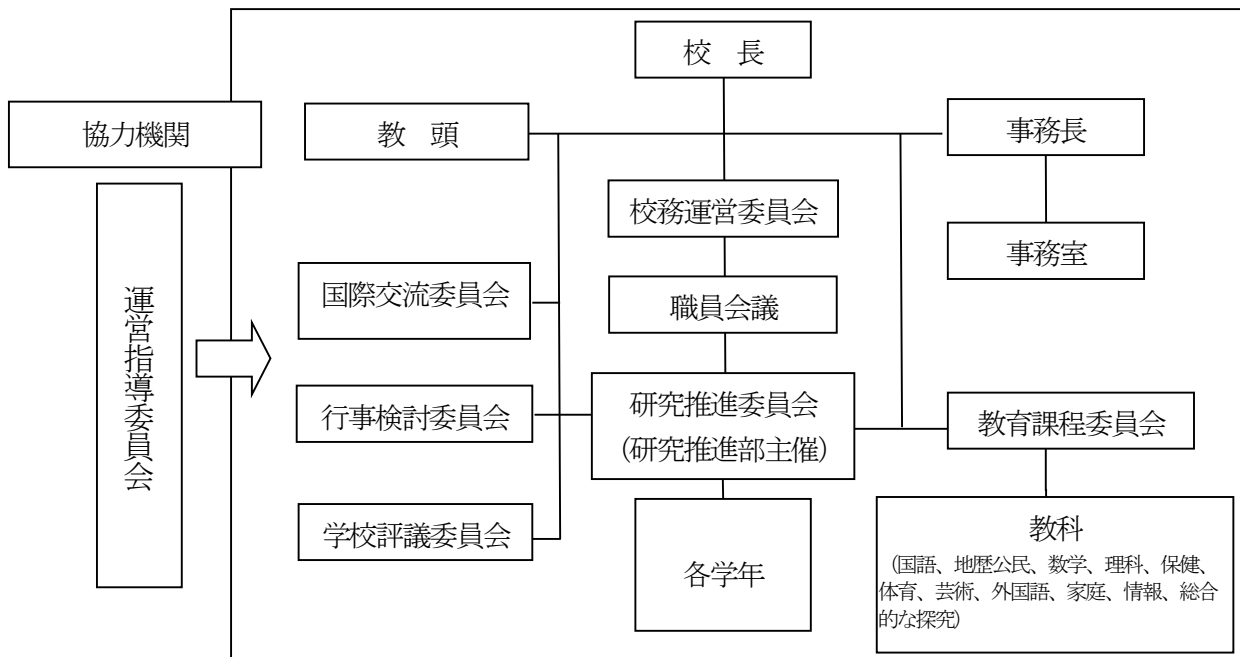
研究テーマ「丹波三宝を使った離乳食・ベジタリアン」

- 11月23日 Sci-Tech Research Forum (関西学院大学)
- 12月14日 全国高校生マイプロジェクトアワード2019北近畿選考会 (福知山市)
最優秀賞を受賞し、北近畿地区代表として関西大会 (2月29日関西大学) に出場することが決まった。
研究テーマ「柏原高校をよりよくする提案」
- 12月22日 全国高校生フォーラム (東京)
- 12月22日 リサーチフェスタ2019 (甲南大学)
「ビックデータ賞」受賞
研究テーマ「豪雨被災地丹波市市島町前山地区への調査より」
- 2月14日 高校生国際シンポジウム (鹿児島県)
「ポスター部門教育分野 優良賞」受賞
研究テーマ「授業スタイル改革に向けての一提案
～スタンディングデスクを題材として～」
- 2月29日 全国高校生マイプロジェクトアワード 関西Summit
研究テーマ「柏原高校をよりよくする提案」
決勝プレゼン進出 (全50個のプロジェクト中、決勝プレゼン7個の内の一つに選ばれた。)

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

【校内運営体制】



各組織の主な役割

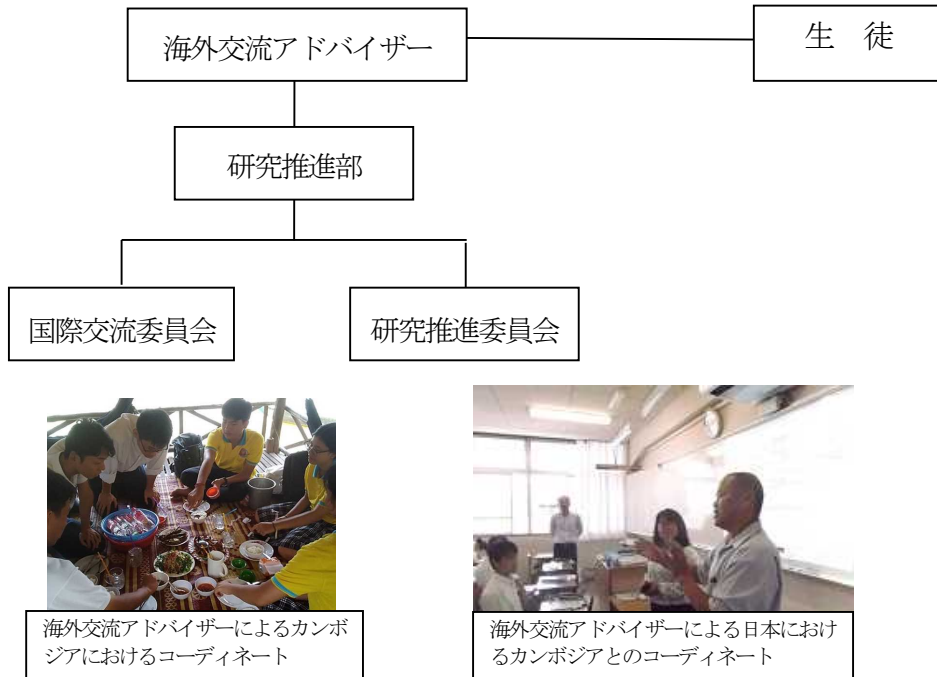
- ・運営指導委員会 大学教員・研究者・学識経験者・教育委員会の指導主事等で構成し、専門的な見地から事業全体について指導、助言、評価する。
- ・研究推進委員会
研究推進部が研究推進委員会を主催し、地域との協働による高等学校教育改革推進事業全般の企画・立案・実施と各教科と連絡調整についての研究を行う
- ・国際交流委員会
国際的活動や交流、姉妹校との協働の企画・立案・実施
- ・行事検討委員会
校外活動の企画・運営・実施についての研究
- ・学校評議委員会
研究活動の評価方法および学校評議員との連絡調整についての研究

- ・校務運営委員会
事業全般の検討と職員間の連絡調整
- ・教育課程委員会
教育課程についての研究

【カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における役割・位置付け】

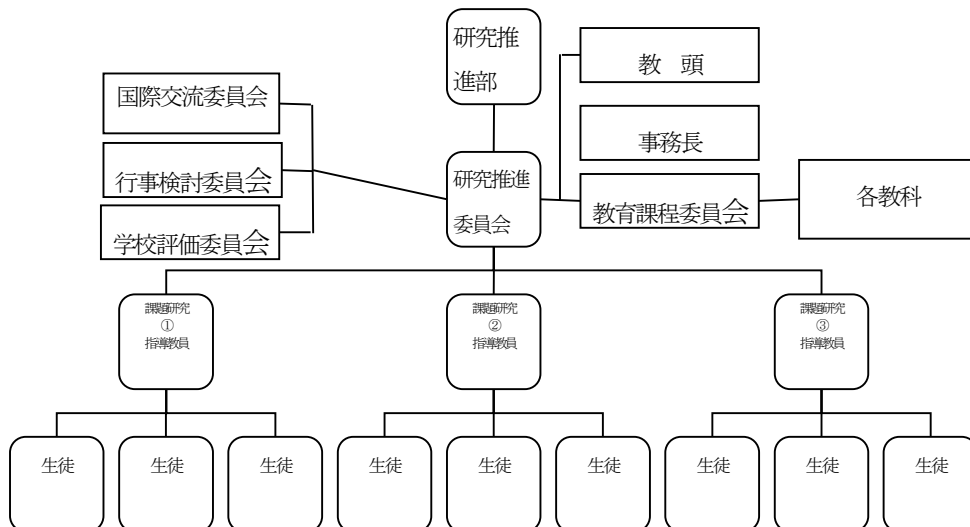
国際交流委員会、研究推進部、研究推進委員会は、海外交流アドバイザーの助言を受けながら運営する。

また、生徒は課題研究において直接指導を受けることができることとする。



②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

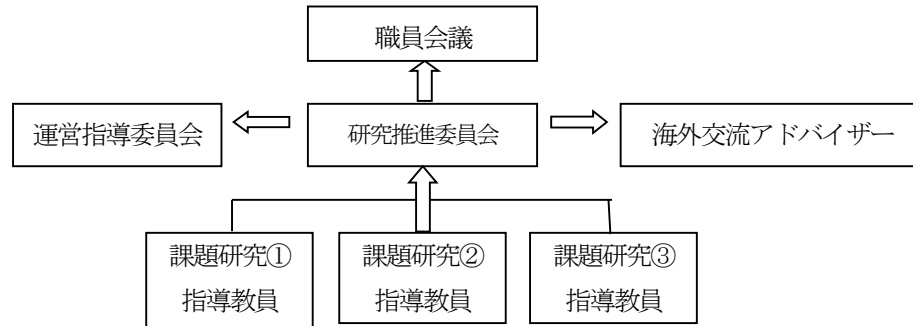
研究推進部が主催する研究推進委員会が、課題研究を指導する指導教員を支援する。研究推進部は、地域との協働による高等学校教育改革推進事業全般の企画・立案・実施と各教科と連絡調整を行い、課題研究において生徒を指導する指導教員を支援する。



③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

研究推進部が、研究開発の進捗状況を確認し、研究推進委員会に報告する。

研究推進委員会として、運営指導委員会、海外交流アドバイザー、職員会議に報告し、進捗状況、計画・方法について評価を受ける。評価結果から研究推進部は改善を作成し、研究推進委員会で検討・計画の改善を行う。



④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

丹波市、丹波市教育委員会

課題研究の指導と助言

丹波市国際交流協会

課題研究の指導と助言、国際交流の推進と助言

丹波市商工会議所

課題研究の指導と助言

丹波市観光協会

課題研究の指導と助言

丹波医療センター

課題研究の指導と助言、地域医療系人材養成プログラムの推進

福知山公立大学地域連携センター

課題研究の指導と助言、研究成果の発表の場の提供

ワシントン州 ケント市、オーバン市

国際交流の推進と助言、課題研究の助言

兵庫県教育委員会

A L T の増員（1人→2人）

テレビ会議システム導入

本事業の推進に係る指導と助言



ケント市、オーバン市市長来日

8 目標の進捗状況、成果、評価

全国及び地域での研究発表への参加は平成30年度4大会であったが令和元年度は1月6日時点で6大会出場している。それに伴って研究内容、研究に対する取組も向上し全国高校生マイプロジェクトアワード2019北近畿選考会（福知山市）では最優秀賞を受賞し、北近畿地区代表として関西大会（2月29日関西大学）に出場することが決まった。また、リサーチフェア2019（関西学院大学）では「ポスター発表実行委員会特別賞」、リサーチフェスタ2019（甲南大学）では「ビックデータ賞」を受賞した。

本事業に対する取組を、すべての教科において導入するよう各教科のシラバスを見直した。

・外部検定への取組み推進

（卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル以上の生徒の割合を25%にする取組み）

平成30年度10%→令和元年度15%

- ・研究授業を含めた地域課題研究に関する研修会を充実させる取組（目標10回）
平成30年度4回→令和元年度8回
- ・グローバルな社会又は地域課題に関する公益性の高い国内外の大会に参加する生徒を増やす目標（目標100人）
平成30年度40人→令和元年度80人
- ・課題研究に関して地域人材の参画を促す。（参画する延べ人数目標70人）
平成30年度40人→令和元年度80人

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 生徒全員が参加する機会を充実させる。

テレビ会議システムを活用し、海外研修に参加できない生徒も海外の生徒と話し合える環境を構築する。最終年度までに、テレビ会議システムを使って、すべての生徒が海外の生徒と意見交換できる力を身につけることを目指し、令和2年度はすべての生徒にテレビ会議システムを使って意見交換する機会を提供する。

知の探究コースの生徒を先導クラスとして課題研究や海外研修を実施しているが、令和2年度は全国及び地域での研究発表に参加する普通コースの生徒の割合及び海外研修に参加する普通コースの生徒の割合を増やす。

(2) カリキュラム開発

令和2年度から3年生の総合的な学習の時間を改編し地域課題研究をより深化させるとともに、プレゼン力の向上を目的とした教科「グローバル」を新たに2単位設定し、開講する。令和2年度は「グローバル」において英語でのプレゼンテーション力をつけることを重点的に行うが、令和3年度から、社会科学系、自然科学系の視点から課題研究をより深化させることができる講座を設置する準備を行う。

(3) 社会に開かれた教育課程の実現

運営指導委員会に丹波市長、地域のNPO法人を加え、地域が本事業に寄せる期待を教育課程に反映できる体制を強化する。

【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局高校教育課	T E L	078-362-9447
氏 名	辻 登志雄	F A X	078-362-4288
職 名	主任指導主事	e-mail	koukoukyouikuka@pref.hyogo.lg.jp